

目 次

— Table of Contents —

平成26年度各国の事後活動組織(SWYAA)の活動報告	3
平成26年度グローバルユースリーダー育成事業	
「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」事後活動連携強化プログラム	13
第8回SWYAA国際大会(トルコ大会)	21
 Activity Reports of the Respective SWYAA in 2014	 35
The Global Youth Leaders Development Program 2014	
“The Ship for World Youth Leaders” Post-Program Activities Promotion Programs	45
8th SWYAA Global Assembly in Turkey	53
 資料編 (Appendix)	 69

平成26年度各国の事後活動組織の活動報告



平成26年度各国の事後活動組織(SWYAA)の活動報告

SWYAA国際連盟に加盟している国々は、各国で様々な活動を行っています。このSWYAAの活動報告では、社会貢献活動に焦点を当てており、各国が年に一度SWYAA国際連盟事務局へ公式に提出するカントリー・レポートの中から際立った活動を取り上げています。詳しい情報は、SWYAAウェブサイトを参照してください。<http://www.swyaa.org/cr.html>

< 正式加盟国 >

オーストラリア

- SWYオーストラリアのRe-engagement Project (再びつながるプロジェクト)

SWYオーストラリアは既参加青年同士や「世界青年の船」事業に関わる主要な団体と再び連携できるようになるために2014年は尽力し、45名の既参加青年がプロジェクトに関わりました(23名がアンケートに回答、17名がSWYプロフィールに回答、5名が個別に興味や支援を申し出てくれました)。これは、2014年6月に実施された各国連絡会議に参加したこととSWYAAの会員間の日常のコミュニケーション・ネットワークが構築されていることにより可能となりました。以下の活動が行われました。

- 代表者会議出席者選考等のための会員(海外在住者も含む)のインターネット会議
- 代表者会議に向けての会員へのアンケート調査
- 既参加青年へのインタビューとプロフィール作成
- 今後の「世界青年の船」事業及びその後継事業の主要な関係者(キャンベラの日本大使館、オーストラリアの国会議員、オーストラリア外務貿易省内豪日交流基金)との会議



バーレーン

- SWYAAバーレーンの集会

SWYAAバーレーンは年に一度の集会を行い、50名の既参加青年が10月15日にマナマに集まりました。年に一

度の集会の招待状がSWYAAバーレーンの全会員に送られ、役員の組織改正、2015年の活動予定、最近実行しているプロジェクト及び2014年に実施した活動についてお知らせしました。会員が常に行っているネットワーキングとミーティングは、その年を通じての新しい経験や、キャリアや個人の成長を共有できる機会となっています。集会の夕食会では、SWYAAバーレーンの貢献を称えて会員に賞が贈られました。



ブラジル

- ブラジルでの「ホームステイ+1」プロジェクト

グローバルリーダー育成事業(GLDP)既参加青年のナイアラ・マーティンが、パラノアの低所得地域の生徒たちが通う教育施設を訪問し、授業を行うプログラム(「ホームステイ+1」)を企画しました。訪問する大学生は、ナイアラの主導で訪問の1か月前より子供たちと一緒に準備を始めました。集中講義も行い、日本の文化と地理を教えました。子供たちも発表をしたいと希望したため、訪問者もブラジルの文化の一端を学ぶ機会となりました。子供たちはカボエラやフェスタ・ジュニーナ(6月の祭り)という有名な代表的なお祭りの踊りを踊りました。また、この日の訪問者であった齋藤珠恵(SWY10、日本)と石井晴子指導官(SWY22/24/25)は日本語とゲーム、折り紙を教えました。両名の尽力に感謝します。一方で、ホセ・サノ・タカハシ(SWY11/16、ペルー)とジナ・パンコルボ(SWY24、ペルー)は、ペルーの文化と伝統を教え、ペルーの手作りのおもちゃをプレゼントしました。皆が楽しんだ特別な日となりました。このプログラムを実施した5月5日は、日本では「子供の日」です。子供たちはお土産(日本の地図、折り紙の本と折り紙、子供を守り、健やかな成長を願うための鯉のぼり)をもらいました。子供たちは、初めて他国の人々に出会い、他国の文化に触れ、楽しむことができました。活動中ずっと子供たちの目は輝いており、子供たちは、楽しい一

日が終わらないでほしいと願っていました。子供たちが訪問者から多くのことを学び、新しい人に会い、彼らの伝統や異なる文化を発見する姿を見て嬉しく思いました。訪問者の取組が子供たち一人一人に影響を及ぼすことは明らかで、子供たちの精神に効果をもたらす実りある訪問でした。



チリ

■ 折り紙プロジェクト：知能と運動能力を発達させる方法

このプロジェクトは、折り紙を通じて子供の創造力を伸ばし、想像力と運動能力を発達させることをねらっています。さらに、私たちは参加者に日本の文化と「世界青年の船」事業への理解を深めてもらうよう努めています。

コンスタンザ・クレスガ（SWY25）は、2014年4月～12月にプンタで折り紙イベントを企画しました。参加した子供たちは、活動の始めに日本の子供たちが折り紙を折るビデオを観た後に、コンスタンザに日本や彼女が参加した「世界青年の船」事業についての質問をしました。折り紙を折ることで手や指先の動きが発達するので、このような活動は子供たちが書く力を養う過程で役に立つと先生たちは非常に喜んでくれました。

今年度は、更に日本文化について学ぶことを活動の目的として、SWYAAチリと生徒の家族たちが子供たちに浴衣を準備しました。



エクアドル

■ ジャパン・エキスポにグローバル・フォト・コンテストの優秀作品を出展

エクアドルの文化遺産省沿岸調整室はSWYAAエクアドルをグアヤキルで開催したジャパン・エキスポに招待

しました。ジャパン・エキスポとは、日本大使館と日本人ボランティア、日本の文化団体と日本の愛好家をつなぐ領事館主催のイベントで、日本の伝統文化、ポップ・カルチャー、武道を披露するものです。11月30日にSWYAAエクアドルは、グローバル・フォト・コンテストの優秀作品50点を持って参加しました。優秀作品とは、「食のある風景」「微笑みと笑い」「次世代に遺したいもの」のフォト・パネルの中から選ばれた作品です。駐エクアドル日本大使は、SWYAAエクアドルの代表者と会い、団体間の将来的な協力について話し合いました。

約500名の日本についてもっと学びたいという来場者、そして協力者も満足するイベントとなり、大成功に終了しました。SWYAAエクアドルにとっては、ジャパン・エキスポに参加することで、2015年に向けて、地域の団体やキトを拠点とした数団体との活動と協力の可能性が広がりました。



エジプト

■ Banding Together（共につながろう）～芸術を通じて「世界青年の船」事業（SWY）の精神を持ち続けよう～

「Banding Together（共につながろう）～芸術を通じてSWYの精神を持ち続けよう～」は、SWYAAエジプトとカイロにある日本大使館の共同イベントです。ゲストは「世界青年の船」事業既参加青年のセオン・ミ・ジャン（サン）（SWY24、カナダ）、ラモン・ナラヤン（SWY16/24、ニュージーランド）、ティレニ・ラテマ（SWY23、ニュージーランド）です。イベントは、9月11日の18時から日本大使館の多目的ホールで実施されました。

SWYAAエジプトの会長であるサミア・モウサは、イベントに必要な企画書を準備し、カイロの日本大使館に提出しました。「世界青年の船」事業や事後活動を普及するためのイベント名やプログラムは彼女が考えました。イベントでは、三つのSWYAA（エジプト、カナダ、ニュージーランド）が協力し、カイロにある日本大使館とSWYAAエジプトの合同で「世界青年の船」事業の事後活動を発表しました。報道陣も日本大使館によって招かれ出席しました。サミアはEl Ahram（エジプト

の公式新聞Al Ahramのインターネット紙)のインタビューを受けました。イベントに向けて、SWYAAエジプトの役員が音楽家、音響技師、楽器、大使館に必要な音響機器を準備しました。これは、SWYAAエジプトと音楽家たちから海外からのゲスト(「世界青年の船」事業既参加青年)への贈り物でした。イベントのために特別に作られたポスターは、SWYAAエジプトとカイロの日本大使館の協力で作成され、日本大使館に広報の協力をいただきました。SWYAAエジプトはまた、日本とエジプトの青年ネットワーク文化交流会(JEN Youth)の会員であるノルハン・ディアブ(SWY24)を通じて、JEN Youthと協力してイベントを広報しました。海外からの「世界青年の船」事業既参加青年もSWYAA国際大会(トルコ)の参加後に合流し、リハーサルが本番前夜に行われました。このリハーサルでは、専門の音楽家が加わり、サンの歌に合わせて伴奏の練習をしました。バンドは、ギタリスト、音響技師、パーカッション奏者、フルート奏者で構成されていました。彼らはSWYの精神を受け入れ、仲間になりました。また、作曲したサンの依頼でSWYソングの歌詞がSWYAAエジプトから観客に配布され、SWYAAエジプトの会員、イベントの観客、音楽家たちで合唱し、SWYの精神を分かち合いイベントは終了しました。

<SWY24のメンバーが作ったSWYソング>

我々は夢を持って生きている、変わるために一つになろう
グローバルなSWYファミリー

我々は世界へ挑戦する

締めつけられているものを打ち破って

真実、愛、平和の自由を



フィジー

■ マングローブの植樹

8月にマングローブの植樹がGLDPのフィジーの既参加青年を中心として実施されました。彼らは、レブカで気候変動問題に取り組んでおり、総数3,000本のマングローブの苗を植えました。



インド

■ 日本の大学とのボランティア・プログラム

SWYAAインドが実施するオープンスクールの子供たちが、2014年9月にニューデリーのミヤブリで、慶應義塾大学(東京)の日本人学生11名と貴重な交流をしました。学生たちは、SWYAAインドが行う教育活動においてボランティア活動をするために、慶應義塾大学の教授と共に訪れました。これは、恵まれない子供たちに日本文化を様々な面から紹介するまたとない機会でした。また、彼らは、国立の小学校も訪問し、SWYAAインドの講師と共に数の数え方、月日の名前、日本の工作、塗り絵、習字、踊り、歌、折り紙を教え、子供たちは意欲的に学びました。インドの子供たちと日本の学生たちにとって、大変貴重な経験となりました。学生たちは、インドの子供たちの学習レベルに驚きながらも、日本とインドの子供たちの知的好奇心と無邪気さは同じであることを述べました。彼らは、インドの子供たちのオープ

ン・マインドと高いIQレベルに驚いた一方で、日本の子供たちはとても繊細で簡単には心を開かないことを伝えました。

インドのナレンドラ・モディ首相が訪日の際に、日本の学校の子供たちや青年たちと交流され、インドと日本の間の戦略的なグローバル・パートナーシップの強化に努められたことを考えても、今回の日本の学生のインド訪問は極めて重要です。今回の訪問は、SWYAAインドの教育分野における社会貢献活動を示す貴重な機会でした。日本の学生と教授は、インドで学校教育の質の向上に力を入れていることに感銘を受けました。インドの子供たちと教師にとっては、言葉の壁を越えた一対一での日本の学生たちとの交流は初めての経験でした。このスタディツアーで日本の学生たちはインドの青年や子供たちと個人的な交流をし、インドの文化を体験することができました。そしてまた、世界をより良くするための社会貢献活動を学ぶ直接的な場となりました。



日本

■ 日本青年国際交流機構（IYEO）の活動報告

2014年度のIYEOは、佐藤恵一新会長と新役員で始まりました。2014年のIYEOの活動方針「社会でリーダーシップを発揮できる人材育成を目指して」に沿って、IYEOは、国内活動を活性化させるとともに社会に貢献できる団体強化をねらって様々な社会活動を行っています。また、2015年に、設立30周年を迎えるに当たり、記念イベントを企画しています。

1. 自民党青年局議員との交流会

松本洋平自由民主党青年局長（当時）主催で事業参加報告と懇談会が行われ、会長、役員、運営委員を含む22名のIYEO会員が出席しました。石川昭政自由民主党青年局次長（SWY13）を含む15名の国会議員に出席いただき、「世界青年の船」事業及びその後継事業の経験や、その経験をどのように社会にいかしていくのかについて国会議員と直接話す貴重な機会となりました。



2. 大規模災害積立金による寄付

平成26年4月上旬にソロモンを直撃した台風による被害に対する募金活動を行った結果、合計130,150円が集まり、SWYAAソロモンへ送金しました。寄付は、寝具及び台所用品の購入に充てられ、台風による被害を受けたSWYAAソロモンの会員へ渡されました。

3. スリランカ教育支援プロジェクト

「One More Child Goes To School」

経済的に困難な家庭のスリランカの子供たちが一人でも多く学校に通い、継続して学習ができるための支援、そして、IYEO会員やスリランカの子供たちの教育支援に興味がある人たちのネットワークを強化することをねらって、プロジェクトは2008年に開始されました。2010年からはフォスター・ペアレンツ（制度）を開始し、2014年は62名の里親が南部マータラ県ブッダ・ジャヤンティ小学校に通う69名のスリランカの5歳～10歳の子供たちを支援し、これまで子供の支援総数は103名となりました。2014年には、プロジェクトの更なる発展を目指してプロジェクトの主導をIYEOに切り替えました。そして、2014年7月には、スリランカの人々の協力を得て、支援先の小学校を訪問するスタディツアーを初めて実施しました。プロジェクト・メンバーやフォスター・ペアレンツを含む7名が参加し、日本の支援者を代表して机400脚、椅子250脚、コピー機等を寄贈しました。また、ツアー参加者は小学校で子供たちに日本文化を紹介しました。



ケニア

■ ツペンダンネ・プロジェクト

ツペンダンネ・プロジェクトでは、ジョナサン・オクウィリ（SWY22）が運営するダンドラのスラム街にあるイヴズ・デイ・ジュニア・スクールに現在通う150名の子供たちを支援しています。5月17日にSWYAAケニアの8名が学校を訪れ、学用品を寄付し、日本映画を上映しました。6月25日には、塩田沙也（SWY22）と稲垣翔太（SWY22）がオクウィリと学校を訪問し、簡単な日本語の授業をしたり、子供たちとゲームをしたりして遊びました。



メキシコ

■ 大西洋をまたぐツイン・プロジェクト

12月5日は、国連による経済社会開発のための国際ボランティア・デーです。SWYAAメキシコとSWYAAスウェーデンは、SWYAA全会員に12月5日又はその前後に社会貢献をしようと呼びかけて、「大西洋をまたぐツイン・プロジェクト」と題し、献血ラリーを行いました。活動内容は以下のとおりです。

- 1) 「大西洋をまたぐツイン・プロジェクト2014年」イベントをFacebookで検索し、「参加する」をクリックする
- 2) 善意でプロジェクトを支援したいと考えるすべての友人を招待する
- 3) 献血をする。献血ができない場合は、献血をしたい人を連れてくる。あるいは、将来的なドナーに登録する。この人数もカウントされる。
- 4) 病院、健康センター、移動採血車の前で自分の写真を撮り、Facebookの「大西洋をまたぐツイン・プロジェクト2014年」イベント・ページに投稿する。



- 5) スーパーヒーロー気分を楽しむ。あなたの献血で命が救われるのです！

詳細は、Facebookページを参照してください。

<https://www.facebook.com/events/350355821804353>

ニュージーランド

■ ストーキング・ファイヤー（旧交を温める）リユニオン

3月28日～30日にロトルアのタンガタルアマラエで行われたイベントは、過去25年以上の「世界青年の船」事業既参加青年が再びつながること、ニュージーランドを代表する若いリーダーが再会すること、「世界青年の船」事業の経験を思い出してもう一度関係を築くことを目的に実施されました。リユニオンはSWYAAニュージーランドの会員を対象に行われましたが、回生や国を越えて、「世界青年の船」事業の既参加青年の誰もが参加することができ、6名が参加しました。主な目的は以下のとおりです。

- 国や参加年度を越えた「世界青年の船」事業の既参加青年が出会い、考えを共有し、関係を築く場を提供する
- 世界中で実施されている事後活動の情報を共有する
- 世界を肯定的に変える新しい考えやプロジェクトを生み出す
- SWYAAニュージーランドを再び活性化させる

主な活動は以下のとおりです。

3月28日（金）

- ポフィリ（伝統的なマオリの歓迎）
- 慣習的な歓迎後、ジョン・メリト（SWY1）によるミヒミヒ（自己紹介）
- 地元の日本食レストラン「Yamato」での夕食。リラックスした良い雰囲気の中で食事を楽しみ、日本の友人たちを思い出しました。日本の御馳走や世界中の友人たちの話で盛り上がりしました。

3月29日（土）

- ラモン・ナラヤン（SWY16 / 24）が事後活動についてのワークショップを行い、新しい考えやプロジェクトが生まれました。ワークショップで提案されたことは、次のとおりです。
 1. 最優先に事後活動組織を再び活性化する。
 2. データベースを更新する。
 3. 地域の連携を築く。
 4. 地域のイベントを企画する。
 5. 国内のリユニオンや将来的には国際大会を主催する等国際的なイベントを実施する。

これらは、ニュージーランドが持つ日本との関係への恩返しにもなる良い方法です。

- 地域のためのピザ・オープン作り
- 船上での夕食。「世界青年の船」事業の経験を再現したいと考えてロトイティ湖のロトイティ・エクスブ

ローラの船上で夕食を取りました。その後、地元のマヌピリア温泉を満喫しました。

3月30日（日）

- 参加者たちは、日曜日の朝食の席では、国内外にいるSWYAAニュージーランドの仲間のSWYAAの活動に対するモチベーションを上げ、同じ目標に向かって活動していく意欲に溢れていました。
- ポロポロアキ（公式の閉会）の後に故イン・コング（SWY24）を偲ぶ短編映画を観て彼女の死を受け入れ、彼女が愛されていたこと、朗らかで温かい精神の持ち主であったことを称えました。出席者にとって、自身の独自性と無限の可能性について改めて考える機会となりました。



オマーン

- SWYAAオマーン・デー + SWYAAオマーン・ロゴの発表（チームでの集まり）

SWYAAオマーン・デー（SWYAAオマーンの年に一度のイベント）が2014年7月16日にマスカットで行われ、SWYAAオマーンの会員が集まりました。チームで集まること、断食明けの夕食を共にすることを主に14名の異なる年度の既参加青年が参加しました。同じ日に、アブドゥル・マリク（SWY22）が作成したSWYAAオマーンの新しいロゴを発表しました。

このイベントでは、ボランティア活動は行わずに会員から寄付を集めるのみとしました。集めた寄付金は、有名な地域のボランティア・グループ「アル・ラーマ・チャリティー・チーム」に寄付されました。この団体は、援助を必要としている家族や特別支援が必要な人々のための活動を行っています。



ペルー

- クリスマス活動

地域の恵まれない子供たちに対する我々の思いを共有するためのクリスマスの社会貢献活動を、2013年と同様に企画しました。この特別な社会貢献活動は、2014年12月13日にキリスト教のNGOであるヘルマノ・トーマス・ヘルム・センターで実施されました。この施設は、カヤオにある日帰り児童保護施設であり、活動には6歳～12歳の子供たち82名が参加しました。我々がこの場所を選んだのは、昨年度も同じような活動をこの施設で行っているため、その活動を継続するためです。カヤオは立憲州であり、何世紀にもわたって使われているペルーの主要な港があります。施設は半島のラプンタ地区にあります。歴史的な要塞であるリアルフェリペ要塞（Fortaleza del Real Felipe）が港を一望できる岬に位置し、主要な国際空港もあります。有名な歴史ある州ですが、貧困率も高く、特に青年たちのための安全な公共の場所が限られています。ヘルマノ・トーマス・ヘルム・センターは、子供が遊び、学び、年齢に合わせて楽しむことができる安全な場所です。我々は、彼らが19年間続けてきた大変な努力に貢献したいと考えました。19名の既参加青年は、子供たちが元気になるような活動をいくつか考え、思う存分に楽しんでもらいました。遊び、歌い、食事をし、走り、絵を描き、たくさんの笑顔ですばらしい時間を過ごすことができました。その日の最後の活動は、2月にペルーに来て、この場所で社会活動に参加するSWY27の日本青年のために、ウェルカム・ポスターとメッセージを準備することでした。これまでにトルコ、ギリシャ、日本の既参加青年がこの活動に参加したことがあります。



スペイン

■ 第10回生け花展覧会（玉手箱プロジェクト）

4月24日～27日にマドリッドの王立植物園で開催された第10回生け花展覧会において、「玉手箱プロジェクト」の一環としてブースを設けました。今回は4名の既参加青年が協力の幅を広げるために折り紙に加えて手作りのイヤリングやマドリッドの陶芸学校から御好意で寄付された陶器の作品を販売しました。売り場を訪れた駐スペイン日本大使にプロジェクトについてお伝えすることができました。以前に行った餅フェスティバルと生け花展覧会の二つのイベントを合わせて総額606ユーロが集まりました。

SWYAAスペインは、高橋裕一郎（SWY13）と協力して「玉手箱プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは、南三陸（東日本大震災で大きな被害を受けた地域）の手工芸品を販売し、寄付金は全額、南三陸の人々を支援するために送られました。



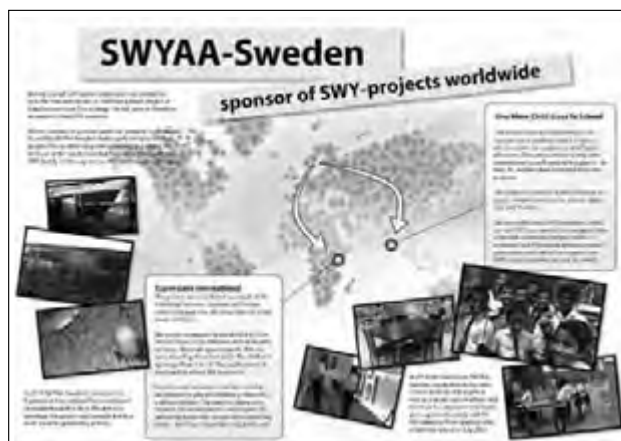
スウェーデン

■ 大西洋をまたぐツイン・プロジェクト （SWYAAメキシコの献血活動）

SWYAAコミュニティ全体で105名の既参加青年が、Facebookのプロジェクト・イベントページでこのプロ

ジェクトに参加する又は参加したことを表明しました。このほかにも世界中の既参加青年から地元の健康センターの病院で献血をしたり、献血者としての登録をしたりする自撮りの写真が投稿されました。

SWYAAメキシコとSWYAAスウェーデンは、2014年に共同の社会貢献プロジェクトとして献血を行うことを決めました。その理由は、献血は常に必要とされており、どの地域でも大変価値のある活動であること、同時に、地理的な場所に関係なく、事後活動組織の会員が参加しやすいこと、そして世界中に活動を広報しやすいからです。世界中の約2,000名にSWYネットワークを通じてイベントへの参加を呼びかけました。105名が積極的にプロジェクトに参加すると表明しましたが、ウェブサイトのイベントページには写真と簡単な報告のみがあげられています。しかしながら、世界中から注目を集める前向きな意見をもらいました。初めて献血をしたいと思う人や献血を試みたけれど認められなかったので再度挑戦する人もいました。実際の成果は判断できませんが、このすばらしいネットワークの力を示す形でグローバルな献血ラリーを行ったことで、多くの人々と世界中の既参加青年が地域に簡単に貢献することができ、世界的なSWY精神を強化することにつながったと考えています。



トルコ

■ 第8回「世界青年の船」事業SWYAA国際大会 （トルコ大会）（第19回インターナショナル・リユニオン） 内容は、P.21～P.34を参照してください。

アラブ首長国連邦

■ アラブ首長国連邦／オマーン／バーレーンのリユニオン

SWYAA UAEは、「世界青年の船」事業に参加したUAEと近隣国バーレーンとオマーンのメンバー合同でイベントを企画しました。19名以上の既参加青年が集まり、1名の日本人既参加青年のホームステイを調整しま

した。彼のためにスケジュールを組み、UAEの文化を紹介しました。

その他の実績：

- モハマド・アルシャルハン（SWY25）が環境に優しい輸送システムで修士号を取りました。
- アハメド・カミス（SWY25）が全国レベルのラフティングのチャンピオンシップで1位を獲得しました。
- ナセル・アルザッピ（SWY22）が青年スポーツ省で青年活動の担当に昇進しました。
- ジャシム・アルオバイドリ（SWY25）が第43回UAEナショナル・デーのイベントでいくつかのTV番組に出演し、UAEの詩について語りました。

英国

2014年はSWYAA英国にとって良い年でした。2月初旬に平成26年度グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」に招へいされることがわかり、SWYAA英国は7年ぶりに次の参加青年の募集を決定しました。選考基準を決め、ソーシャル・メディアを使い広報しました。そして、英国各地からプログラムにふさわしい候補者を確実に集めるために個々のネットワークも使いました。我々が知る国家公務員のネットワークや青年グループやボランティア団体のネットワークにも案内しました。英国の力強い多様性をできるだけ示せるように少数精鋭のメンバーを選びたいという意向がありました。日本大使館のウェブサイトやソーシャル・メディアでの広報を通じて候補者を絞り、最も優秀な候補者を決めることができたのです。電話インタビュー、スカイプ・チャット等ののち、最終的に10名が選ばれました。



ベネズエラ

■ユースフルシティーズ・カラカス

2014年5月にSYWAAベネズエラのプロジェクト・コーディネーターであるナタリア・ウィエルダクと青年代表のアンドレイナ・ソトがベネズエラのカラカスでユースフルシティーズのイニシアチブを担いました。ボ

ランティアとして9名のベネズエラ人の参加者とカナダなどから15名の海外の参加者がプロジェクトに関わりました。

ユースフルシティーズは、都市の青年の力を地球規模で調査・分析するグローバルなソーシャル・ベンチャーです。ボランティアのアンドレイナ・マルティネス、カルロス・レセンディス、リカルド・レセンディス、ルニン・ベレダ、ルイス・オマール・ロドリゲス、リカルド・ゴンザレス、エリック・ウィエルダクの協力で、異なる背景の青年たちに600以上の調査を行い、ユースフルシティーズのインデックス誌に情報を提供しています。インデックス誌では、青年の視点での世界の上位都市の順位付けをしており、地域で新たな活力を生み出す変化を起こしながら、都市の青年の声を世界的に広めています。広範囲の調査もカラカス・インデックス誌で取りまとめています。何百もの指標の中で、とりわけ、市民参加、交通手段、健康、安全、多様性、メディア、生活費など16以上の分野の調査が行われました。調査の結果は、30歳以下の30名の有力な都市生活者を含む今話題のシンクタンクである「30ネットワーク・カラカス・ミーティング」で発表されました。30名は、多数の専門分野に関心のある様々な背景を持つリーダーであり、都市の青年の問題に関わっている人々です。



< 準加盟国 >

ロシア

■ 2014年ロシアの「SWYトレイン」

SWYAAロシアは、6月22日～7月6日にロシアの「SWYトレイン」を実施しました。プログラムの目的は、SWYAA会員がロシア文化に親しみ、持続可能な社会に貢献することでした。12名の既参加青年がプログラムに参加し、モスクワとウラジオストクを結ぶシベリア横断鉄道で旅をしました。シベリア鉄道は区間が定められている固有の鉄道ではなく、異なる列車を組み合わせる旅をする鉄道です。ロシアのSWYトレインの参加者は、5都市（モスクワ、カザン、エカテリンブルク、ノヴォシビルスク、イルクーツク）を訪れ、3,500kmを列車で旅しました。加えて、ノヴォシビルスクから1,900kmのイルクーツク近郊のバイカル湖も訪問しました。SWYトレインの期間中、参加者はロシアの生活様式、歴史的、文化的伝統と価値を学び、異文化理解を深め、青年同士が協力して社会貢献活動を実施しました。

モスクワには三日間滞在し、都市の中心部を歩きました。クラシックバレエの「白鳥の湖」を観劇し、モスクワ州立大学、オスタンキノTV塔、タガンカのバンカー42を訪問し、SWYリユニオン・ディナーを楽しみました。その後、カザン市を二日間訪問しました。ここでは、参加者に伝統的なタタール料理の作り方を教える料理のワークショップと「信仰の音楽」のフェスティバルに参加しました。また、エカテリンブルクでSWYトレ

インの参加者は、「We Can Do Everythingフェスティバル」にボランティアで参加しました。フェスティバルでは、障害のある青年たちとフェスティバルの参加者のために上級者向けの文化授業を企画しました。さらに、言語リンク・スクールによる「ロシアでの外国人の在り方」と題した特別セミナーに参加するすばらしい機会もありました。ノヴォシビルスクでは、地元のボランティア事務局（Dom Molodezhi）で「ボランティア精神」についての討論会に出席しました。最終目的地はノヴォシビルスク市でした。そこで参加者は、プログラムを通しての経験を発表し、ロシアに関する誤解について話し合いました。参加者の何名かはイルクーツクとバイカル湖に向けて旅を続けました。バイカル湖は世界で最も大きくて深い淡水湖であり、ユネスコの世界遺産です。さらに、そこでは、夏の国際青年キャンプ「バイカル2020」に参加しました。

詳細は、ウェブサイトを参照してください。www.ruswyaa.org

